

平成23年度 第4回

大阪府・大阪市経済動向報告会

第1部：最近の大阪経済の動向 資料

『ポテンシャルを発揮して離陸できるかが問われる大阪経済』

平成24年1月27日

財団法人大阪市都市型産業振興センター
経済調査室長 徳田 裕平



【本日の話題】

- 1 この1年あまりの景気認識を振り返る
- 2 国内総生産の動きが語る日本経済のトレンド
- 3 構造変化を感じさせる2011年の近畿圏の輸出動向
- 4 四半期の景気観測調査から捉える大阪市の状況
- 5 月次指標で捉える大阪経済の動向
- 6 企業経営者・専門家などは日本/大阪をどう捉えてるか

1 この1年あまりの景気認識を振り返る 各種機関での業況総括判断推移の比較

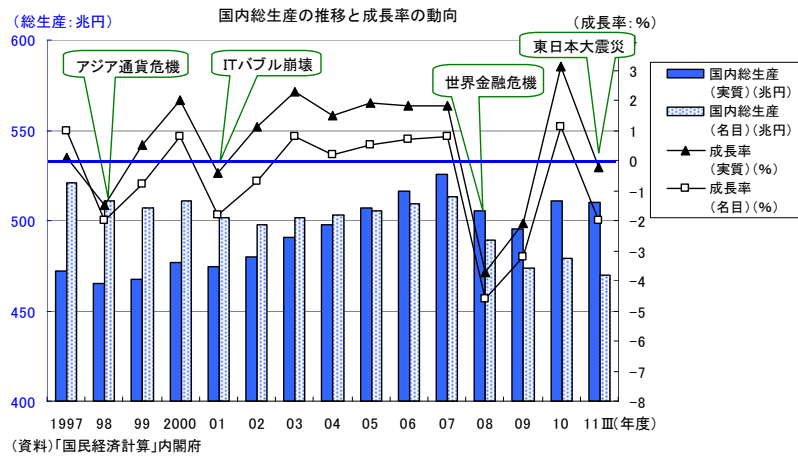
年月	【国内関係】	【近畿(日銀大阪支店)】	【経済調査室のフェーズ】	【大阪府(景気観測調査)】	【大阪府経済の動向】	年月
10月	景気は、このところ 足踏み状態 となっている。また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある	雇用面などに厳しさを残しつつも、緩やかに 回復 している	【フェーズD】 外需牽引型回復の構図がややゆらぎはじめた 足踏み 状態	年末需要などにより景気は 再び持ち直し 歩調へ	需要、供給で一進一退の状態から抜け出せず、景気は引き続き 足踏み	10月
11月	景気は、このところ 足踏み状態 となっている。また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある	緩やかな回復基調にあるものの、このところ 足踏み 状態となっている	【フェーズD】 需要の底固めに加え、成長市場を獲得した分野が牽引し始めた 足踏み 状態	景気は 再び持ち直し 歩調へ	求人需要は改善するも、需要、供給両面で弱含みの様相を呈し、景気は依然 足踏み	11月
12月	景気は、 足踏み状態 にあるが、一部に 持ち直し に向けた動きがみられる。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	緩やかな回復基調にあるものの、このところ 足踏み 状態となっている	【フェーズD】 需要の底固めに加え、成長市場を獲得した分野が牽引し始めた 足踏み 状態	景気は 再び持ち直し 歩調へ	供給面と雇用面を中心に景気は再び 持ち直し の兆候	12月
11年1月	景気は、 持ち直し に向けた動きがみられ、足踏み状態を脱しつつある。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	緩やかな回復基調にあり、昨秋からの 足踏み 状態を脱しつつある	【フェーズD】 東日本大震災による関係業界の影響で供給と需要の両面が急激した 足踏み 状態	景気は 再び持ち直し 歩調へ	供給面の一部は弱含むも、年末需要もあって景気は総じて 持ち直し の動きを継続	11年1月
2月	景気は、 持ち直し に向けた動きがみられ、足踏み状態を脱しつつある。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	緩やかな回復基調にあり、昨秋からの 足踏み 状態を脱しつつある	【フェーズD】 東日本大震災による関係業界の影響で供給と需要の両面が急激した 足踏み 状態	景気は 再び持ち直し 歩調へ	需要、供給、雇用の各側面で総じて堅調で、景気は 持ち直し の動きを継続	2月
3月	景気は、 持ち直し に向けた動きがみられ、足踏み状態を脱しつつある。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	緩やかな回復基調にあり、昨秋からの 足踏み 状態を脱しつつある	【フェーズD】 東日本大震災による関係業界の影響で供給と需要の両面が急激した 足踏み 状態	景気は 再び持ち直し 歩調へ	需要、供給、雇用の全てが総じて堅調で、景気は 持ち直し の動きを継続	3月
4月	景気は、持ち直していたが、東日本大震災の影響により、このところ 弱い動き となっている。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつあったが、足もでは東日本大震災の影響が生産面などにみられはじめている	【フェーズD】 東日本大震災による関係業界の影響で供給と需要の両面が急激した 足踏み 状態	景気は 再び持ち直し 歩調へ	消費や雇用の一部に足踏み感が漂うものの、景気は 持ち直し の動きを継続	4月
5月	景気は、東日本大震災の影響により、このところ 弱い動き となっている。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつあったが、足もでは東日本大震災の影響が生産面などにみられはじめている	【フェーズD】 東日本大震災による関係業界の影響で供給と需要の両面が急激した 足踏み 状態	景気は 再び持ち直し 歩調へ	一部に足踏み感が見られるなど 震災の影響 も懸念されるが、景気は総じて 持ち直し の様相	5月
6月	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、このところ 上向きの動き がみられる	緩やかな回復基調にあるが、このところ東日本大震災の影響が生産面などにみられはじめている	【フェーズD】 東日本大震災による関係業界の影響で供給と需要の両面が急激した 足踏み 状態	景気は 再び持ち直し 歩調へ	工業系や輸出などに 震災の影響 がうかがわれるが、景気は総じて 持ち直し の動きを継続	6月
7月	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、このところ 上向きの動き がみられる	緩やかな回復基調にあるが、東日本大震災の影響が生産面などにみられはじめている	【フェーズD】 東日本大震災による関係業界の影響で供給と需要の両面が急激した 足踏み 状態	景気は 再び持ち直し 歩調へ	工業系や雇用面で 足踏み 感が漂うが、景気は総じて 持ち直し を継続	7月
8月	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、このところ 上向きの動き がみられる	緩やかな回復基調にあり、 震災の影響も薄れて きている	【フェーズD】 東日本大震災による関係業界の影響で供給と需要の両面が急激した 足踏み 状態	景気は 再び持ち直し 歩調へ	海外関連の一部で弱含むも総じて堅調な動きを示し、景気は 持ち直し の動きを継続	8月
9月	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、このところ 上向きの動き がみられる	緩やかな回復基調にあり、 震災の影響も薄れて きている	【フェーズD】 東日本大震災による関係業界の影響で供給と需要の両面が急激した 足踏み 状態	景気は 再び持ち直し 歩調へ	需要面や生産で足踏み感がうかがわれるも、景気は 持ち直し の動きを継続	9月
10月	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、引き継ぎ 持ち直し しているものの、そのテンポは緩やかに 持ち直し している	緩やかな回復基調にあるが、海外経済減速などの影響が一部にみられ始めている	【フェーズE】 外約要因により、本格的回復軌道に乗り移れない 足踏み 状態	年末需要などにより景気は 再び持ち直し 歩調へ	輸出や輸出工業などに軟調な様相を呈し、景気は 持ち直し を継続しつつもやや減速	10月
11月	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、引き継ぎ 持ち直し しているものの、そのテンポは緩やかに 持ち直し している	足踏み状態となっている	【フェーズE】 外約要因により、本格的回復軌道に乗り移れない 足踏み 状態	年末需要などにより景気は 再び持ち直し 歩調へ	輸出や輸出工業などに軟調な様相が拡大し、景気は 足踏み	11月
12月	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに 持ち直し している	足踏み状態となっている	【フェーズE】 外約要因により、本格的回復軌道に乗り移れない 足踏み 状態	年末需要などにより景気は 再び持ち直し 歩調へ	需要や供給面の一部で弱含むの様相を呈するも、景気は再び緩やかに 持ち直し	12月
1年1月	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、引き継ぎ 持ち直し しているものの、そのテンポは緩やかに 持ち直し している	足踏み状態となっている	【フェーズE】 外約要因により、本格的回復軌道に乗り移れない 足踏み 状態	年末需要などにより景気は 再び持ち直し 歩調へ	需要や供給面の一部で弱含むの様相を呈するも、景気は再び緩やかに 持ち直し	1年1月

(財)大阪府都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 国内総生産の動きが語る日本経済のトレンド

(1) 長期にわたる国内総生産の推移

- ・2007年度をピークに経済規模が縮小している現実を直視すべき
- ・実質のGDPでは2008年度に迫る回復を見せるも、名目では底這い状態の日本経済

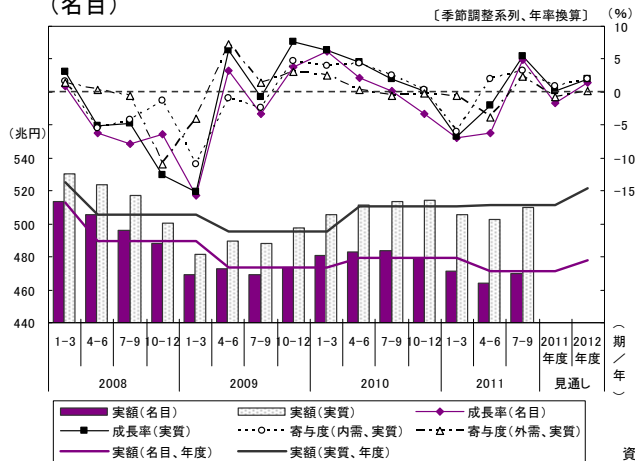


(財)大阪府都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 国内総生産の動きが語る日本経済のトレンド

(2) 四半期毎の国内総生産の動きと見通し

7-9月期のGDPは震災復興により4四半期振りに回復するも、470兆円には達成せず
(名目)



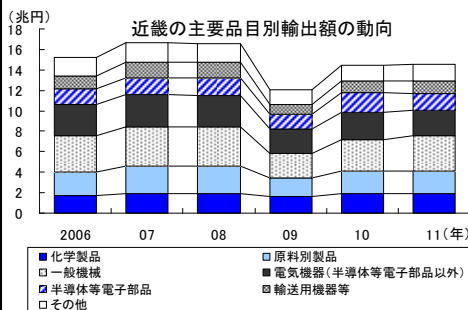
資料: 内閣府「国民経済計算」、
11・12年度の見通しは、
東洋経済統計月報2012年2月号
「調査機関による経済見通し」

(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

3 構造変化を感じさせる2011年の近畿圏の輸出動向

(1) 品種別、国・地域別輸出動向

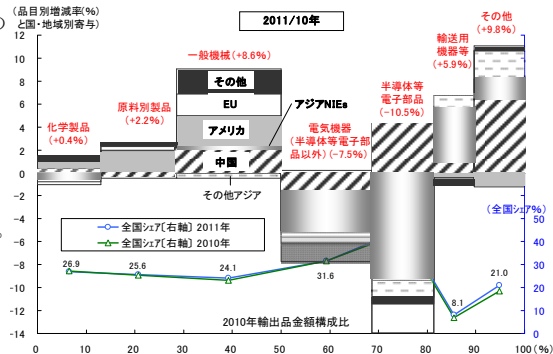
- ・2010年に2割増加した近畿の輸出総額は、震災の影響や世界経済の成長鈍化などにより、11年は+1%増とほぼ横ばいで推移した。
- ・品種別では年末にかけて、**その他**の伸張が著しく**一般機械**も引き続き牽引役となっており、輸出増加に踏み止まった。他方、昨年の伸びが高かった**電子部品**や**電気機器**はマイナスに転じた。
- ・国・地域別では最大の牽引役であったNIEsへの**輸出が減少**に転じた他、アメリカやEUも僅かなプラス。



(資料) 大阪税関「貿易統計」
注: “輸送用機器等”には近畿でシェアの小さい鉱物性燃料、
原料品、食料品を含める。

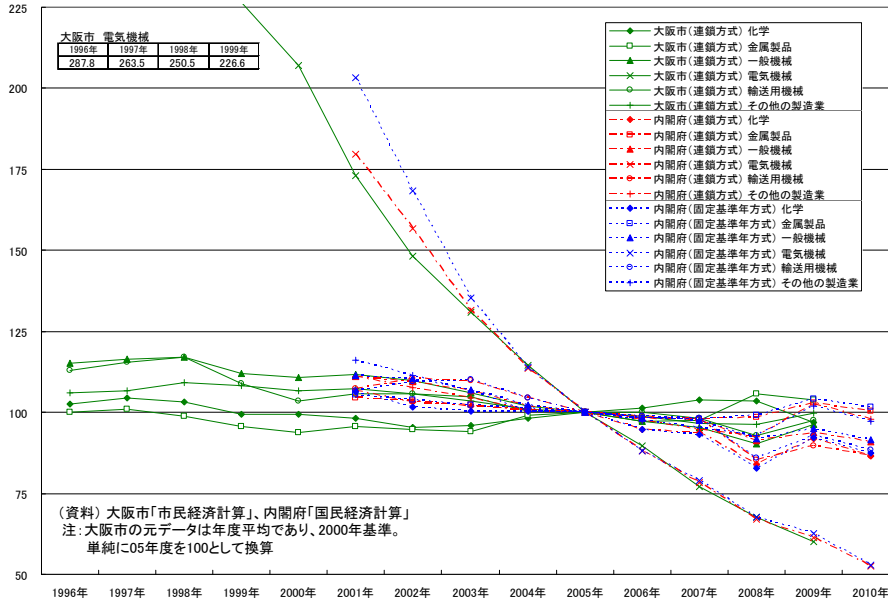
(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

近畿の主要品目別、国・地域別輸出額の増減と全国に占めるシェア



3 構造変化を感じさせる2011年の近畿圏の輸出動向

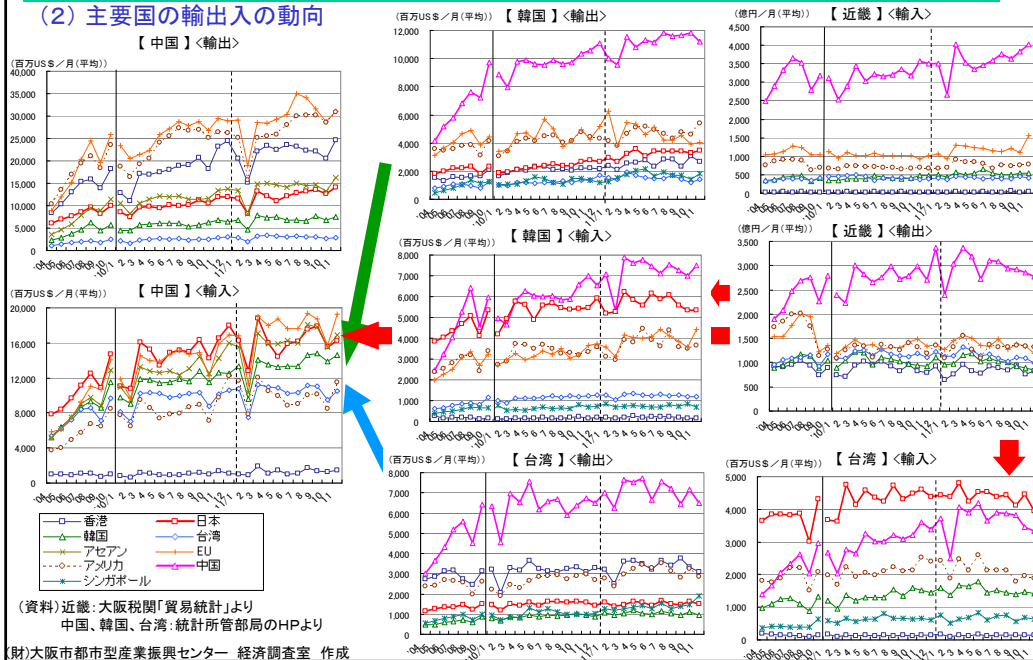
(参考) 製造業のデフレータの業種別推移



財)大阪府都市型産業振興センター 経済調査室 作成

3 構造変化を感じさせる2011年の近畿圏の輸出動向

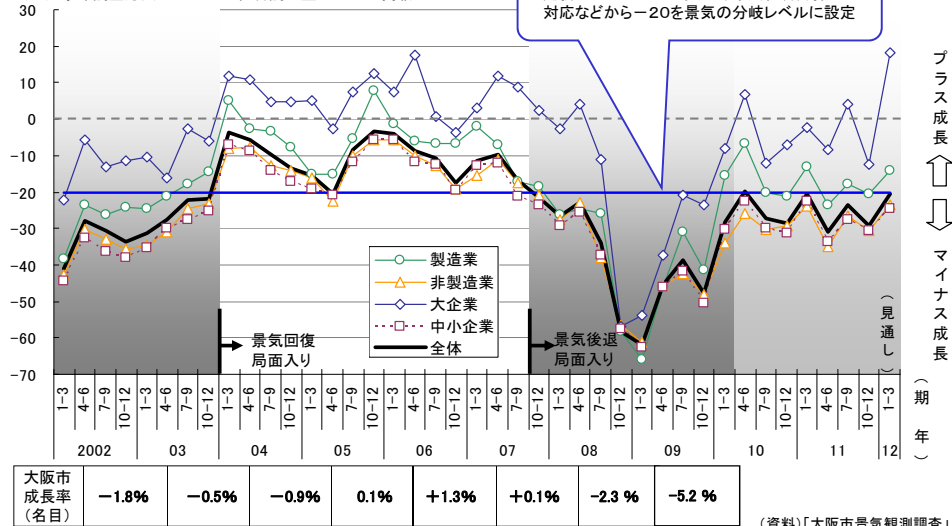
(2) 主要国の輸出入の動向



4 四半期の景気観測調査から捉える大阪市の状況

(1) 季節調整後の対前期比景況判断DI

(注) 季節調整方法については経済調査室のHPに掲載

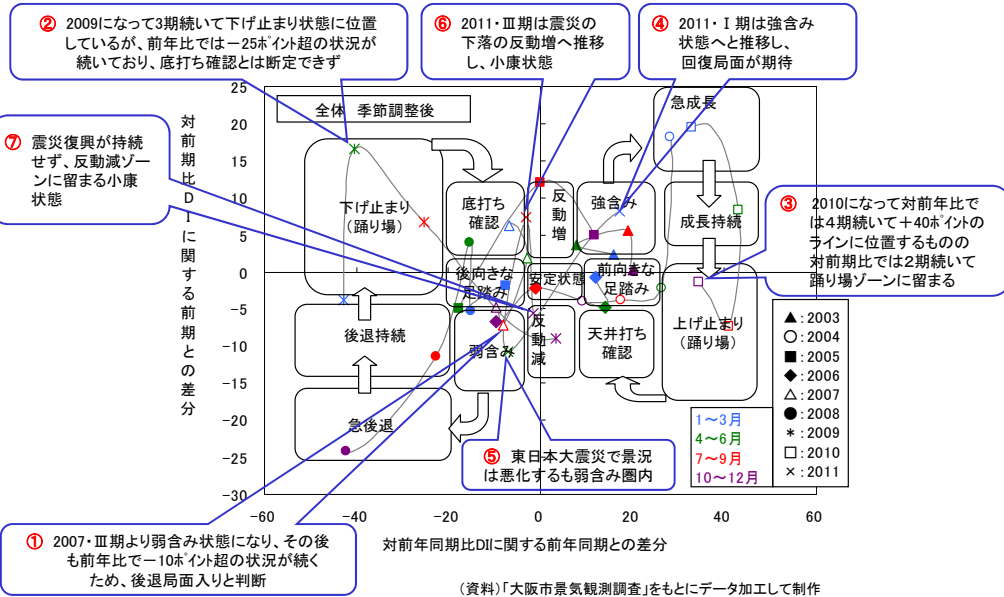


(資料)「大阪市景気観測調査」、
「大阪市民経済計算」

(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

4 四半期の景気観測調査から捉える大阪市の状況

(2) 前年同期比と前期比を組み合わせた「景気動向クロス判定による現状評価」



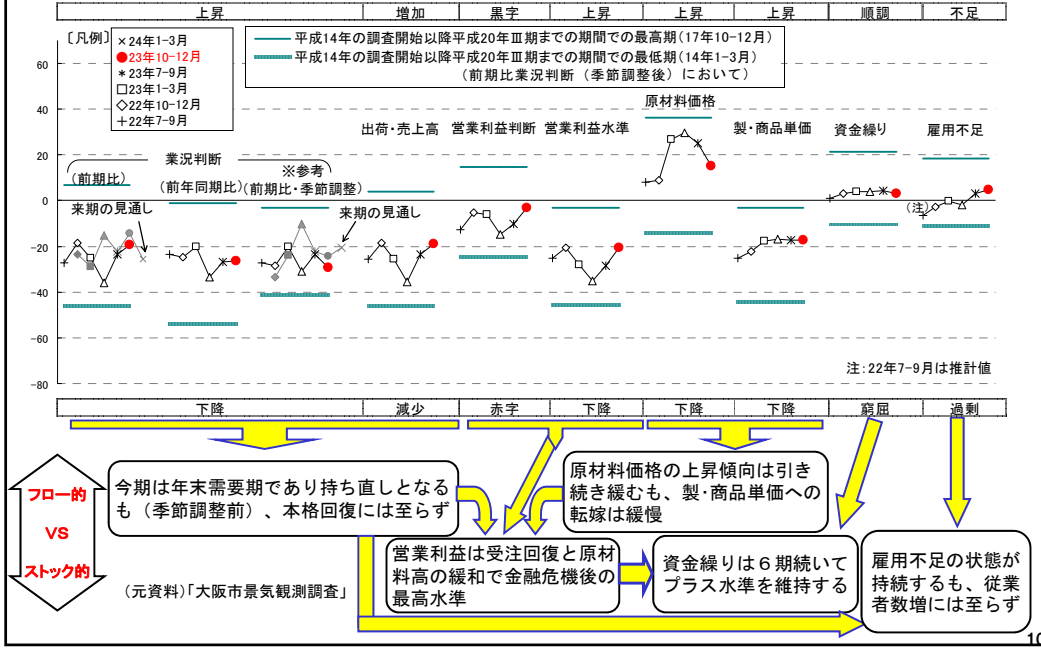
(資料)「大阪市景気観測調査」をもとにデータ加工して制作

(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

■ 4 四半期の景気観測調査から捉える大阪市の状況

(3) 主要指標のD I 変化と状況認識

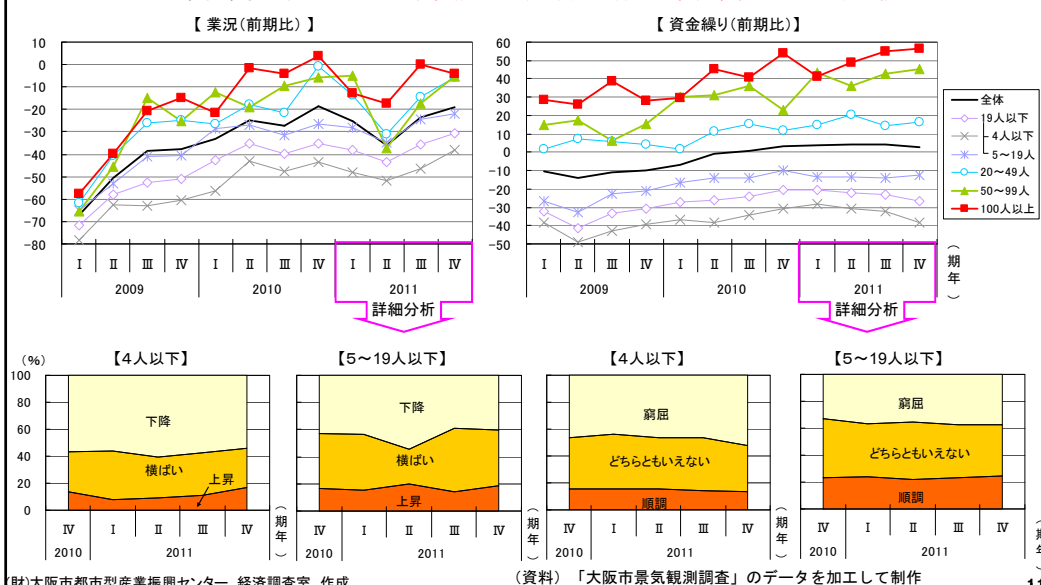
(平成22年7-9月~23年10-12月)



■ 4 四半期の景気観測調査から捉える大阪市の状況

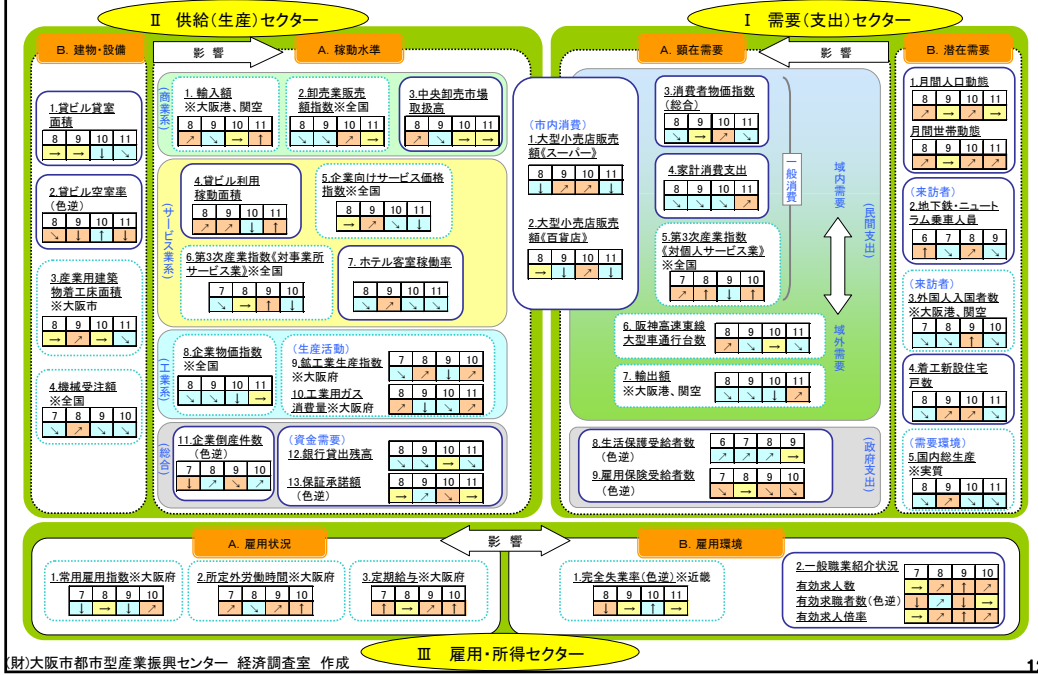
(4) 企業規模による回復格差の観点から

⇒ 業況DIは零細規模も含めおおむね改善傾向にある。資金繰りは零細規模企業で3期連続で悪化



5 月次指標で捉える大阪経済の動向

(1) 毎月の指標動向一覧 (2011年12月発表資料より)



財)大阪府都市型産業振興センター 経済調査室 作成

12

凡例

番号、指標名
月(1-3等の場合は四半期)
前月(期)からの変化を矢印で区分し、色で意味を表現

■矢印の見方 ※向きは決定方法については本編「利用上の注意」参照

- ↑ 前月(期)と比較して大きく増加
- ↗ 前月(期)と比較して増加
- 前月(期)と比較して横ばい
- ↘ 前月(期)と比較して減少
- ↓ 前月(期)と比較して大きく減少

■色の見方

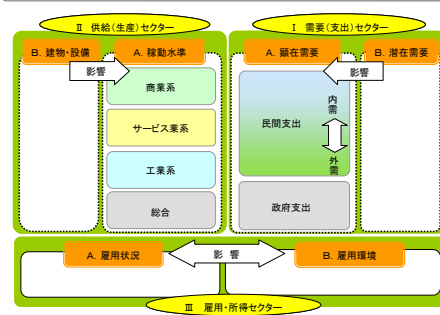
- オレンジ 景況にプラスの方向
- 黄色 景況に変化なし
- 青 景況にマイナスの方向

◎ただし、以下の7つの指標については指標の意味する内容に鑑み、矢印と色の対応が逆になっている。
生活保護受給者数、雇用保険受給者数、企業倒産件数、保証承諾額、貸ビル空室率、完全失業率、有効求職者数 これらの指標は、「(色逆)」で表示。
表記なしの場合(↑、↗、→、↘、↓) (色逆)の場合(↓、↘、→、↗、↑)

■大阪府とそれ以外の指標
指標はなるべく大阪府の範囲に近いものを優先して掲載しているが、大阪府の指標がないものは、大阪府、近畿、全国などの広範囲の指標も代用している。
◇大阪府の指標(枠は実線) ◇大阪府より広域の指標(枠は破線)
例> 4. 家計消費支出 例> 5. 第3次産業指数(対個人サービス業) ※全国

財)大阪府都市型産業振興センター 経済調査室 作成

図の見方



■直近4ヶ月の大阪市経済の変化を読む

図では、経済情勢を俯瞰するために、I 需要(支出)、II 供給(生産)、III 雇用・所得の3つのセクターに分けて整理した。

I 需要(支出)セクター

A. 顕在需要は、一般消費(小売・サービス等最終消費者向け)等や輸出等の需要を中心とした**民間支出**と、大阪市等による**政府支出**によって需要の動向を表す。
B. 潜在需要は顕在需要に影響を与える数字を表す。

II 供給(生産)セクター

A. 稼働水準は、卸を中心とした**商業系**、事業所を対象とするサービスを提供する**サービス業系**、製造業を中心とした生産活動を行う**工業系**、倒産件数や資金需要など産業活動を総合的に捉えた**総合**の4分類で、供給の動向を表す。
B. 建物・設備は、各産業活動の稼働水準に影響を与える建物・設備等の状況を表す。

III 雇用・所得セクター

A. 雇用状況は、雇者サイドから、**B. 雇用環境**は被雇者サイドから、雇用・所得の状況を表す。

13

5 月次指標で捉える大阪経済の動向

(2) 大阪市経済の現状

(2011年12月)

- 9月：需要面や生産で足踏みをうかがわせるも、景気は持ち直しは緩やかに持続
- 10月：輸出などで軟調な様相を呈し、景気は持ち直しを継続しつつもやや減速
- 11月：輸出や鉱工業などに軟調な様相が拡大し、景気は足踏み

12月：需要や供給面の一部で弱含みの様相を呈するも、景気は再び緩やかな持ち直し

需要面では、一般消費は家計支出が回復するも、スーパー、百貨店が落ち込むなど弱含みの様相。域外需要にも力強さはない。供給面では、商業系と工業系でやや持ち直しの動きを示すが、サービス業系は弱含み圏内で推移。全体としては緩やかな持ち直し。雇用面では、雇用状況は堅調な動きがみられ、雇用環境も持ち直しの動きが続いており、全体として持ち直し基調。

II 供給(生産)セクター

【A. 稼働水準】

- ◆**商業系** 輸入額(11月)は大阪港、開空ともに増加し、合計では近年の最高水準。全国の卸売業販売額指数(11月)や中央卸売市場取扱高(11月)は横ばい。商業系は緩やかな持ち直しが持続。
- ◆**サービス業系** 貸ビル稼働面積(11月)は増加。全国の企業向けサービス価格指数(11月)、全国の対事業所サービス業指数(10月)はともに下降。ホテル客室稼働率(11月)は2ヶ月連続下降するも水準は低くない。サービス業系は弱含む水準は低くない。
- ◆**工業系** 全国の企業物価指数(11月)は横ばい。大阪府の鉱工業に関する指数(10月)は前月の下降より反転、生産、出荷ともに上昇、在庫は下降。大阪府のガス消費量(11月)は3ヶ月ぶりの増加。工業系は持ち直しの動き。
- ◆**総合** 企業倒産件数(10月)は増加。保証承諾額(11月)は横ばい。

【B. 建物・設備】

- ◆**貸ビルの貸室面積**(11月)は2ヶ月連続減少、空室率(11月)は再び下降。産業用建築物着工床面積(11月)は減少。全国の機械受注額(10月)も減少。

I 需要(支出)セクター

【A. 顕在需要】

- ◆**一般消費** 大型小売店販売額(11月)では、スーパー、百貨店ともに減少、百貨店は前年同月を下回る。消費者物価指数(11月)は下降、家計消費支出(11月)は4ヶ月ぶりに上昇するも、一般消費は総じてやや弱い動き。
- ◆**輸出等の外需** 大型車通行台数(11月)は減少するも高水準を維持。輸出額(11月)は、大阪港で減少、開空で5ヶ月ぶりの増加。域外需要は緩やかながらも持ち直しの動き。
- ◆**政府支出** 雇用保険受給者数(10月)は2ヶ月連続減少。

【B. 潜在需要】

- ◆**人口**(11月)は横ばい、世帯数(11月)は増加。外国人入国者数(10月)、着工新設住宅戸数(11月)はともに減少。国内総生産(11月)は2ヶ月連続減少。

III 雇用・所得セクター

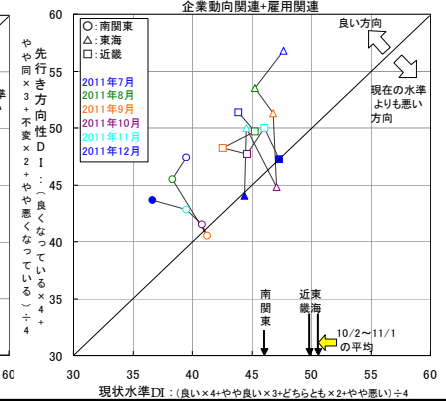
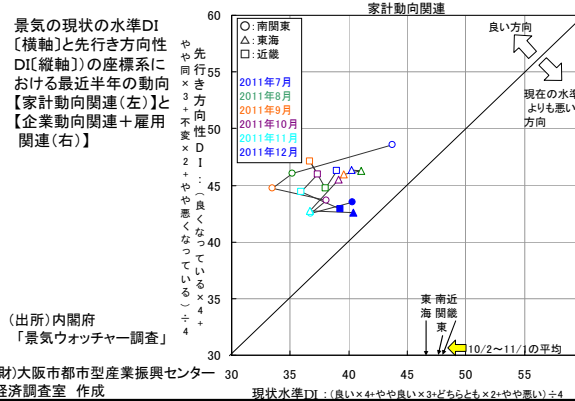
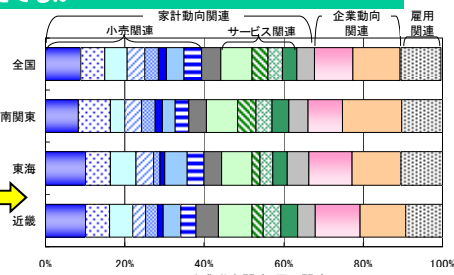
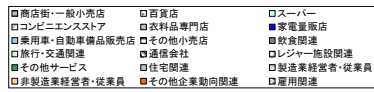
- 【A. 雇用状況】 大阪府の常用雇用指数(10月)は前月までの下降基調から反転上昇、所定外労働時間(10月)、定期給与(10月)はともに増加。雇用状況は総じて堅調な動き。
- 【B. 雇用環境】 近畿の完全失業率(11月)は横ばい。一般職業紹介状況(10月)は、求人数の増加、求職者数の横ばいにより、求人倍率は1倍以上を維持。雇用環境は持ち直しを継続。

14

6 企業経営者・専門家などは日本/大阪をどう捉えているか

(1) 内閣府の景気ウォッチャー調査より

- ・家計動向関連の12月時点の位置は現状水準DI、先行き方向DIともに、3大都市圏は近傍範囲にあり、状況は類似。ただし回復の勢いは弱まりつつあり、震災前との格差は大きい
- ・(参考として逆算した)企業動向+雇用関連のDIでは、**近畿の水準は震災前に近づくも、東海で足踏み状態、南関東は3期連続で悪化し復興への道は険し**



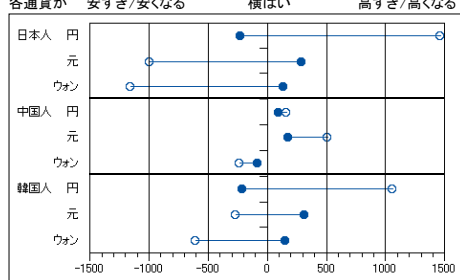
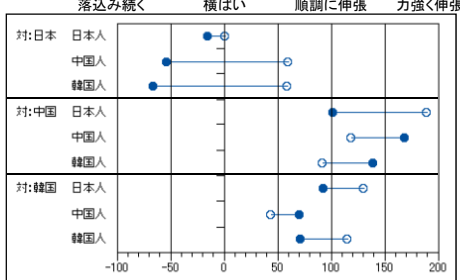
6 企業経営者・専門家などは日本/大阪をどう捉えているか

(2) 日本、中国、韓国の企業経営者に対する調査結果より (元データを加重平均してDIを独自算出)

- ・図A ⇒ 2011年に関しては、日本人経営者が日本経済を悲観し、中国・韓国経済を過大評価する傾向が見られた。2012年は様変わりし、日本人以上に中国・韓国の経営者が日本経済の現状を「落ち込んでいる」と捉えている。背景には、大震災の影響が大きいと思われるが、家電や自動車などの分野での日本製品の存在感の低下もあろう。他方、中国に対しては、日本人のみが「勢いが鈍った」と捉えており、**中国人・韓国人とは方向性が逆**の認識。対韓国では、日本人と韓国人が「勢いが多少鈍った」と捉える一方、中国人は「わずかに勢いが増している」と認識。
- ・図B ⇒ 日本人は現状の**歴史的な円高**を強く指摘しており、それとの相対で、ウォンや元が安すぎると捉えている。この一年で円は(期待を込めて)多少安くなると見直し、元やウォンが少しは高くなり、異常な状態が僅かに改善するとの見方。中国人は、現状で円よりも**元の方が高い**と認識し、年末にも依然として元と円は**僅かに上昇**するとの見方。韓国人は、現状で円高を相当に認識しつつ、**ウォン安**であることも認めており、元も円との対比で安い方の捉え方。年末には円安方向に多少は動く捉え、相対的に**元やウォンが多少は高くなる**との見直しを持っている。全般に自国通貨との相対的な見方をする傾向がうかがわれ、日本人は円高是正、韓国人はウォン安是正を予想するものの、中国人は元高が持続すると見通すなど、3者3様の認識が確認される。

図A: 2011年(○)と12年(●)に関する、各国経済の現状認識の変化

図B: 2011年末(○)と12年末(●)の為替水準に関する、各国通貨の認識と見直し



(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成 (出所) 日経新聞「日中韓経営者アンケート」(毎日経済新聞[韓国]、環球時報[中国]との共同調査) 16

6 企業経営者・専門家などは日本/大阪をどう捉えているか

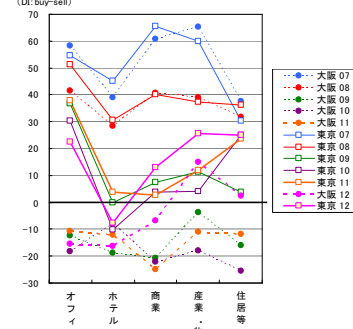
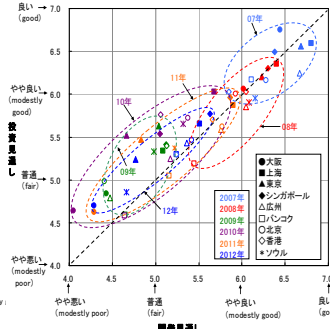
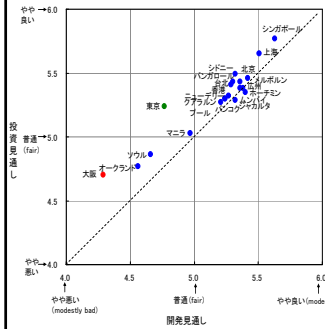
(3) アジアの大都市の商業用不動産に対する不動産専門家の評価結果より

- ・図A ⇒ 2012年の**大阪の評価**はアジア主要21都市の中で、投資見直し、開発見直しともに**最低のランク**(なお、東京も開発見直しは普通以下で、ソウルはさらに低評価。東京や大阪は開発に対する相対的な**投資安全度は高い**)
- ・図B ⇒ 金融危機を境に投資/開発の進展が大幅下落し、特に東京、大阪は下落が顕著。ただし、大阪の投資は僅かに**上昇国の勢いの差**が明確に現れており、**シンガポールが連続で首位**。新興国(中国[上海、北京、重慶、広州]、ベトナム、インド[バンガロール、ニューデリー]、インドネシア[ジャカルタ])や**資源国**(オーストラリア[シドニー、メルボルン])、台湾[台北]などが高位置にある。他方、香港は12年に急落し、ソウルも11年に降に大幅下落。
- ・図C ⇒ 5つの部門別評価DI(買い-売り)により2011と12を比較すると、**大阪では“産業・物流”の上昇幅が26ポイント超**で顕著な改善。**商業や住居等**もかなりの改善。
- ・「本社機能が東京から大阪へシフト中」、「総額の1割は大阪に投資」、「東京のみに集中投資するより周辺」などの声もあり。

図A: 2012年に関して、21都市のなかで大阪は?

図B: 主要9都市に関する6年間の評価の推移

図C: 大阪と東京に関する部門別の評価DIの試算



(財)大阪市都市型産業振興センター (出所) アーバンランド・インスティテュート(ULI)とプライスウォーターハウスクーパース 経済調査室 作成 「不動産の新しい動向 アジア太平洋(Emerging Trends in Real Estate® Asia Pacific)」 17